



補欠ゼロリーグは、キッズ年代（10歳以下）の子供たちに『年間を通して定期的に試合ができる環境』を提供するため、2004年にスタートした岩手県独自の取り組みです。
才能を埋もれさせず、ひとりでも多くの子供たちがサッカーへの関心を持続してくれることを目的としています。

- 【主催】 (社)岩手県サッカー協会
- 【主管】 (社)岩手県サッカー協会 キッズ委員会 11地区
- 【運営】 各地区キッズ担当者、指導者、JFA公認キッズリーダー、保護者の方々
- 【対象】 少年団やクラブチームに所属する小1～小4の児童および準ずる児童で、傷害保険に加入していること
- 【内容】 2002年にJリーグ・アカデミー（当時プロジェクトリーダー山下則之氏）が提唱した『補欠ゼロ～参加するすべての子供たちに均等に試合の機会を提供する』の考え方を基本に、原則として少年団対抗ではなく、集まった子供たちを混成シャッフルして4～5人制の即席チームに分けて、その日限りのリーグ戦をおこないます。
 - ◆混成するので団員1人での参加も大丈夫
 - ◆試合には常にレギュラー選手としてフル出場
 - ◆4～5人制でボールに関わるチャンスが多い
 - ◆混成・即席チームの中でプレーすることで社会性を養う



一関地区 (U-6, 8, 10)

日時会場 : 2012年11月18日(日) 9:00～12:00 一関市東山総合体育館
 参加団体 : 一関・一関南・山目・萩荘・東山・カワサキ・一関キッズ (順不同)
 参加人数 : 74名【U-6 7名、U-8 27名、U-9 23名、U-10 17名】
 運営統括 : 千葉 晃徳 (県南キッズ部会長、一関南 FC)

【開会式～準備体操】

準備体操の指揮は、開会式中に指名された団から上級生数名が前に出ておこないます。



【U-6】

動き作り、ボールフィーリング、そしてシュート練習。



試合 (子供 vs 子供、子供 vs コーチ)



【U-8】 試合のようす 積極的なボールの奪い合いでした。試合間のM-T-Mクリニックのテーマは「正確なキック」でした。



【会場全体】 手前1面 U-6、中央2面 U-10、奥2面 U-8



【U-10】 「試合開始前クリニック」 本日はスローイン練習他



【U-10】 第1試合、第2試合



「M-T-Mクリニック(1)」 4vs2 パスのもらい方、パスアンドゴー



【U-10】 第3試合、第4試合



「M-T-Mクリニック(2)」 2vs1 シュート、状況判断



【用具片付け ～ 閉会式】 背番号を確認しながらのピブス仕分けは、上級生が責任持っておこなっていました。



【本日の運営スタッフ】



【運営統括者コメント】

- ◆ 練習試合などの開催があったため、参加する少年団やコーチが少なかったです。
- ◆ U6に7名の参加がありました。一関キッズ以外の子の参加は今年初です。
- ◆ 本日は参加人数が少なかったため、通常のクリニックの他にU8・U10は2試合おきにクリニック（トレーニングあり）をおこないました。試合を見て気になった所をトレーニングして、効果ありました。M-T-Mの重要性を改めて感じました。
- ◆ 子供たちには、指導内容が出来ることが大事なのではなく、指導内容をやろうとする気持ちが大事と伝えました。

【運営統括】 千葉 晃徳（県南キッズ部会長、一関南 FC）

【2012 補欠ゼロリーグ 一関地区：開催結果および開催予定】

大会日	参加合計	U-6	U-8	U-9	U-10	一関市東山総合体育館
4月 14日（土）終了	52名	0	4	19	29	
5月 12日（土）終了	77名	3	23	20	31	
10月 8日（月）終了	66名	5	23	15	23	
11月 18日（日）終了	74名	7	27	23	17	
12月 15日（土）終了						
1月 12日（土）						
2月 2日（土）						
3月 9日（土）						

【注意】 参加チームは、運営統括者から配信される最新の開催案内を十分確認するようお願いします。

【報告・編集】 鎌澤 和之（岩手県サッカー協会 キッズ委員会）